



©Yuki Asada

## ネパールの女性たちに自立する力を

「仕事をして、自分の力で収入を得たい」。生活のため、そして自分自身のために、そう願う女性たちがいます。

ネパールの首都カトマンズから西へ200キロ。美しい湖沼群を持ち、人気のトレッキング地でもあるボカラ市にあるWomen's Skills Development Organization (WSDO) は、1975年に設立された女性向けの技術訓練を行う団体です。貧しかったり、障害があったり、過去に暴力を振るわれたり、夫に先立たれたり……。そんな女性たちがスキルに合わせて訓練を受け、自立を目指しています。

彼女たちが携わっているのは、綿糸を染色し、織りあげ、バッグやポーチ、おもちゃといったコットン100%の商品を作ること。一つ一つハンドメイドで、現地での

観光客向けの他、海外にもフェアトレード商品として販売されています。

WSDOには、2002年から青年海外協力隊やJICAシニアボランティアなど7人の日本人が関わってきました。「協力分野は染色、縫製、デザイン、品質管理など、多岐にわたります」と、その中の一人、シニアボランティアの上坂とよ子さんは話します。「自立には市場開拓も必要と考え、品質管理やマーケティングにも取り組んできました。協力隊員たちが伝えた新しい技術も、熱心な彼女たちが引き継いでいます」

さまざまな支援を糧に、今では自分たち自身で商品をデザインし、制作できるようになったネパールの女性たち。今日も新しい商品作りに取り組んでいます。



ボカラの作業場で働く女性たち

★ネパールのミニポーチを3人にプレゼント! → 詳細は38ページへ

★商品はJICA地球ひろば(東京都新宿区)併設のJ's Caféの他、国内のフェアトレードショップなどで購入できます。

